

令和6年度 事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス重症心身障害以外）

○事業所名	児童支援事業所ぷらみんぼーと		
○保護者評価実施期間	令和 6年 9月 17日		令和 6年 10月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	91名	(回答者数) 66名
○従業者評価実施期間	令和 6年 11月 25日		令和 6年 12月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども本人の満足度	活動の部屋が3つに分かれていること、静養室があることでお子さんの相性に合わせた支援が出来る。集団の中で落ち着かない時にも静かに過ごせる部屋がある。	お子さんのできることに合わせた活動のさらなる展開
2	放課後等デイサービス支援計画書に基づく支援	活動に合わせた支援計画ではなくお子さんそれぞれの長所に視点を向けて作成している。普段関わりが浅い職員や心理士、看護師も会議に参加し多角的な視点から計画をブラッシュアップしている。	アセスメント能力の向上
3	医療面でのフォロー	体調・怪我等の変化があった時には看護師が確認し家族に連絡している。医療的ケアだけを理由に利用を断ることはしていない。	児童指導員の医療的ケアに対する知識の向上

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご意見・ご要望の即時対応	複合型の施設で共有している設備が多く事業所間での調整が必要になることもあるため直近の要望にお応えできない	要望の全てをかなえることは難しい。部分的にお答えできるように体制を整えていく。
2	感染対策・安全計画・BCPなどの周知	マニュアルとして完備しているが職員の認知度が低め。家族に対して簡単に伝えているがマニュアルという認識ではない。	職員向けは研修の中で周知をかけていく。 家族向けは簡易版を作成し周知していく。
3	活動（サービス内容）の見える化	6月に見学会の機会を設けている。広報誌でも活動内容を記載しているが来所できないご家庭からは活動内容が分かりにくい。	見学会について手紙だけでなくメールでも周知かけていく。 見学会の時期以外も見学できることを伝えていく。